



第 2 号
平成 23 年盛夏
発行
真龍山大雄寺
北見市留辺薬町宮下町 109
TEL 0157-42-2418
FAX 0157-42-2748



昭和 35 年当時の花まつり風景 於大雄寺

今年も早いもので、もうお盆の時期になりました。私もこの留辺薬でお盆を迎えるのは四度目になります。本州より涼しい北海道の生活の中でも、「ああ、今年はいつともより寒いなあ、今年はいつともより雨が多いなあ」と、その違いを感じ取る事が出来るようになってきたのは嬉しい事でもあります。

この一年を振り返るにはまだ早いかもかもしれませんが、三月十一日に起きた「東日本大震災」は、地震・津波などの甚大な被害をもたらしました。また、原発による放射能の問題などは、震災から何ヶ月たった今日においても予断を許さない状況であり、一刻も早い復興を願ってやみません。しかし、それと同時に、私たち国民一人一人が考えさせられる契機となったのではないのでしょうか。

私たちが普段、何気なく生活している日々の中、地震や津波という自然の力の前にはどんな文明も無力であるという事。私たちの便利になった生活を支えてきたエネルギーには限りがあるという事。これらの事は、今回の件が無ければ気付かず生活していたかもしれない事。

まだ被災地では何万人もの人が避難生活を余儀なくされております。けれども、その中でお互い手を取り合い助け合っている姿というのは、今の社会に足りないものを改めて気付かされた気が致します。

仏教では、お釈迦様を始め悟った人を「覚者」と言います。「覚者」とは真理に目覚めた人、気付いた人という意味であります。残された私たちが今回の事で、「今ある命は生かされているんだ」という謙虚な心、「自分一人だけでなく共に助け合う慈悲の心」に気付いて始めてこの震災を乗り越えられた、亡き人の思いに応える事が出来たのではないかと思います。 合掌

お寺の動き

留辺薬町托鉢修行

昨年の十一月十八日、曹洞宗の若い青年僧侶七名で留辺薬町内を托鉢して回りました。毎年、北見・網走管内の町で行っているのですが、留辺薬の皆さんにとっては初めて見たという方も多かったと思います。

托鉢はお釈迦様のいた遙か昔から行われており、当時の修行僧は、その日を生活する食料を乞うていました。最近では食料の代わりにお金を集め、寄付をするという形が増えていますが、皆さんの「喜捨」の心に違いはないと思います。

当日は檀信徒以外の町内の方々にも浄財を頂き、総額11万8978円となりました。それらは全額、留辺薬町社会福祉協議会、シヤンティ国際ボランティア会に寄付させて頂きました。また同時に、協力してもらった方々に感謝申し上げます。



平成 22 年 11 月 20 日 伝書鳩にて掲載

梅花講の紹介

お盆やお彼岸のお参りの時、綺麗な鈴の音色に合わせたお唱えを聴いた事があると思います。メロディーに合わせ、お釈迦さまや、両祖さま、ご先祖さまを敬い、法要を厳かなものにする欠かせないものです。この梅花流には三つのお誓いがあります。

- ・私達は梅花流詠讃歌を通して、正しい信仰に生きます。
- ・私達は梅花流詠讃歌を通して、仲よい生活をいたします。
- ・私達は梅花流詠讃歌を通して、明るい世の中をつくりまします。

また月一回の練習の後にはお茶を飲んだり、年齢を関係なく和気あいあいとした雰囲気や常に笑いが絶えません。この他に梅花講以外の方も混ざって、お寺のお掃除だったりしては是非、ご参加お待ちしております。



- 坂下登茂子 (仲町)
- 荒 久子 (旭西)
- 佐藤 花江 (栄町)
- 伊東 花子 (旭北)
- 菊地富司子 (旭西)
- 荒内サト子 (旭西)
- 藤本 和子 (旭西)



大雄寺行事予定

- 8 月 16 日 孟蘭盆施食会
新亡施食会 午前 11 時より
一般施食会 午前 11 時半より
- 9 月 23 日 秋彼岸会 午後 1 時より
- 10 月 17 日 成道会 正午 12 時より
・11 時頃より昼食が出ます。
・御本山布教師様の御話しが御座います。
- 2 月 18 日 御涅槃会 正午 12 時より
・11 時頃より昼食が出ます。
・御本山布教師様の御話しが御座います。
- 3 月 21 日 春彼岸会 午後 1 時より
又は 20 日

仏事

Q & A

知ってるつもりでも、わからないことが多い仏教用語もあるよ
うです。そこでQ&Aのコー
ナーを設けました。

Q お参りする時に必要なお供えものとは何ですか？

A お参りの時には「五供養」といって基本的なお供えものがあります。その一つ一つには尊い意味があり大切な事なので、ここで少し紹介したいと思います。

・灯明(燭) 灯りを元に無明を照らし、智慧の光で迷わず歩みましよう。

・香(お線香) 香を焚き、仏の慈悲を遍く行き渡らしましよう。浄水(お水) 全ての命を育むもので、清らかな心を持ちましよう。

・花(お花) 命の輝き、美しさを共に喜び称えましよう。食物(菓子・果物) 命をいただく事に共に感謝の気持ちを持ちましよう。

以上が基本的なお参りの形ですが、やはり一番大切な物は手を合わす私たちの「心」です。どんなに豪華で煌びやかであっても「心」が無ければ全く意味がありません。私たちが供養するのではなく、供養させてもらっているという気持ちで手を合わせた方がいいです。

Q それでは、お盆のお参りに必要なものは何ですか？

A お盆は昔から年に一度、ご先祖様が私たちの元に帰ってくるものだとされていて、それに由来したお供えとなっております。

・盆提灯 昔は家の前で迎え火(十三日)、送り火(十六日)をしたんですが、今はその代わりに盆提灯を飾るのが一般的になってきました。

・水塔婆 水塔婆とはお釈迦様が亡くなり、そのお骨を納めた塔を模したもので言われています。水塔婆はその供養した経木を水に流すことで、一切の万霊に奉げる意味があります。

今は川や海に供物・お飾りは流せなくなってきましたが、代わりにお寺でお焚きあげしているの、忘れずに持ってきて下さい。



心のたすき

私たち一人一人、それぞれの生き方があるように、それと同じ数の別れ方がある。そこには良い悪いという優劣は無く、あるのは与えられた命を真つ当した姿と、亡き人とのかけがえのない思い出だけです。ここでは毎回、色んな方に亡き人との思い出を語ってもらい、その思いを次の方に渡してもらいたいと思います。

「亡き主人を想い・・・」 東町 中原静子



ようやく夏の陽射しも強くなり、短い夏が来たんだと実感しています。この度、若方丈より「いつもお話されている、亡きご主人との思い出を一筆書いて欲しい」と言われ、亡き主人が総代を務めていた縁もあり、拙文ながら書いた次第です。

私の生活しているこの町も、木材で賑わっていた頃に比べると寂しくなってきましたが、目まぐるしく変化する世界情勢を思うと、今の生活がつくづく平和であると感じます。

昨年、主人の七回忌法要を無事、執り行うことが出来ました。長年、連れ添った人がいなくなるというのは心が引き裂かれそうな思いでしたが、苦小牧から来てくれた娘夫婦、主人のご友人、町の皆さんにお世話になり、ようやく主人のいない生活に慣れてきたところではあります。

今でも、どこに行くにもカバンにスナップ写真を入れて持ち歩いています。寝る時もベッド横に写真を置いて、いつも感謝し手を合わせる毎日です。そんな生活を送りながら、何年経っても主人との思い出は揺らぐことなく、いつも心の中におります。

これからも自分が元気であることに感謝をして、また亡き主人が作ってくれた「人との縁」「お寺との仏縁」を大事にしながら生きていきたいと思っています。

弥勒菩薩半跏思惟像 広隆寺蔵

旭中央 佐々木健次 画



平成二十二年度役員

住職	米田 廣章	加藤 昌男 (旭中央)
副住職	米田 憲人	小熊 正三 (旭中央)
総代	戸田 健司 (大富)	荒木 正憲 (旭西)
世話人	八巻 正一 (宮下)	佐々木勝太郎 (豊金)
	永沼 昭衛 (栄町)	

編集後記

▼去年から始めたこの会報、何とか今年も出すことが出来ました。評判は概ね好評で、「お寺や仏教の事が分かりやすく嬉し」とのお声を多数頂きました。昔なら一緒に住んでいたじいちゃんばあちゃんや、近所の物知りの人から色々教えてもらっていたものです。時代の流れと言ってしまうとそれまでですが、やはり今いる私たちが、後世にきちんとその大切さを伝えるのもやるべき事だと思っています。今年は講演会などお寺でもイベントをたくさん企画しています。どんどん参加してもらって、お寺との輪を広げていきましょう。
(副住職)